



世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎名誉市民顕彰会

2010

FOR THE WELFARE AND  
HAPPINESS OF ALL MANKIND

世の人々の楽しみと幸福の為に

石橋正二郎  
名誉市民顕彰会



石橋文化センターの正門石壁には、ブリヂストン創業者石橋正二郎の筆跡(ひっせき)でこう刻まれています。

「世の人々の楽しみと幸福の為に」

この言葉は、人を愛し、事業を愛し、郷里を愛した正二郎の経営理念であり、人生観でした。

正二郎は、1889年(明治22)、久留米市本町に生まれました。久留米商業学校の在学中、高等商業学校へ進学する志を抱きましたが、父の反対で断念。兄と共に仕立物業の「志まや」を引き継ぎました。17歳の時です。正二郎は足袋専業に改め、徒弟制度を廃止して有給制度を採用。その後も、均一価格の導入、地下足袋の創製、ゴム靴の量産などで事業を発展させました。

1928年(昭和3)頃、正二郎は自動車タイヤの国産化を決意。39歳の時です。

「当時、わが国の自動車保有台数はわずかに5、6万台といわれ、そのタイヤは殆(ほと)んどが欧米からの輸入品であったから、私は国産タイヤを安価(あんか)に供給することは、わが国の自動車の発達に大きく貢献するものと思った」

1930年(昭和5)、日本足袋タイヤ部により第1号タイヤが誕生し、翌年、久留米市にブリヂストンタイヤ株式会社が創立されました。日本人の資本で、日本人の技術による自動車タイヤの国産化が成功したのです。20年ほどして、同社は業界首位に立ちました。

1956年(昭和31)、正二郎は、会社創立25周年を記念して石橋文化センターを建設し、久留米市に寄付しました。67歳の時です。終戦後、市民が生活に追われる中、青少年の思想に及ぼす影響を心配したのです。当時の主な施設は、石橋美術館や体育館、野外音楽場。それは市民にとって、「夢の贈り物」でした。

「私は、愛郷心から私の会社の工場を永久に発展させたい念願であり、従って会社ばかり繁栄しても調和がとれないから、何とかして立派な久留米にしたい。(中略)清潔で整然とした秩序を保ち、教養の高い、豊かで住みよい、楽しい文化都市にしたいと願うものである」

そうして今、石橋文化センターには、美しいバラに見入る多くの観光客。石橋美術館には美術ファン、文化ホールには音楽ファンが集います。「世の人々の楽しみと幸福の為に」。この言葉は、これからも市民が語り継ぐべき大切な「宝」です。

# 石橋正二郎名誉市民

## 世の人々の楽しみと幸福の為に



製造記念タイヤ前にて



石橋文化ホール・文化会館を建設し久留米市に寄贈(1963年・昭和38)  
石橋文化センターの正門石壁には、正二郎の筆跡でこう刻まれています。  
「世の人々の楽しみと幸福の為に」



久留米市より名誉市民の称号を受ける(1956年・昭和31)



1976年(昭和51)9月11日死去、87才。久留米総合スポーツセンター県立体育館にて、市民葬が執り行われる。石橋家の菩提寺、千栄禅寺に遺骨を納める。

## ごあいさつ

石橋正二郎名誉市民は、「世の人々の楽しみと幸福の為に」と「最高の品質で社会に貢献」との理念のもと、ブリヂストンを世界のトップ企業に育てあげるとともに、地域経済の発展や、地域の文化・教育に多大の貢献をされた。久留米大学の創立、石橋文化センター・石橋文化ホール・石橋美術館の開館、有馬記念館の開館、久留米市内全21小中学校へのプールの建設寄贈など地域の文化・教育への多大の貢献は枚挙にいとまがなく、今日の久留米市の文化都市づくりの創始者といえることができる。人を愛し、自然を愛し、郷土の発展を願った石橋正二郎名誉市民は、私たち久留米市民すべての誇りである。

平成21年に、石橋正二郎氏生誕120年を迎えるにあたり、久留米市、久留米大学、久留米商工会議所等による実行委員会を組織し、石橋正二郎名誉市民の人々の幸福と郷土の発展を願った理念を広く伝え、これからのまちづくりを進めるため、石橋正二郎氏生誕120年記念事業を実施いたしました。

今後さらに、石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、新たに久留米市、久留米大学、久留米商工会議所をはじめ、官民一体となって石橋正二郎名誉市民顕彰会を組織することといたしました。

今後は石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施してまいります。皆様方には、今後とも石橋正二郎名誉市民顕彰会の活動にご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会 会長 本村 康人

## 広く伝え、行動する

### 石橋正二郎名誉市民顕彰会

平成22年8月発足

# 墓前祭

平成22年9月11日・千栄禅寺にて開催

寺町にある千栄禅寺にて、平成22年度の石橋正二郎名誉市民(以下正二郎と記す)墓前祭が、9月10日に行われた。

この墓前祭は、毎年同氏の命日(9月11日)に合わせて行っているもの。会場の千栄禅寺には百人を超す市民が集まり、入口には当時の写真も飾られ、正二郎を偲びました。会場では、献花等が行われた後、出席者を代表して名誉市民顕彰会の本村康人会長が「私共は、改めてあなたの輝かしくも壮大な生涯をしっかり再確認し、あなたの「人々の幸福(しあわせ)と郷土の発展を願った理念」を後世に伝え、これからのまちづくりを進めたい」と墓前に誓いました。



# 足跡を振り返る 記念ウォーキング

平成22年10月30日開催

清潔で整然とした秩序を保ち、教養の高い、豊かで住みよい、楽しい文化都市にしたいと願うものである。

(石橋正二郎～遺稿と追想～より)

正二郎は久留米市の都市づくりに尽力を惜しみませんでした。そのゆかりの地を訪ねる「石橋正二郎名誉市民ゆかりの地めぐり」正二郎ウォークが平成22年10月30日に開催されました。



## 石橋文化センター

世の人々の楽しみと幸福の為に

終戦直後の子どもたちを明るくしたいという正二郎の思いから生まれた、石橋文化センター。ブリヂストンタイヤ創立25周年を記念して昭和31年(1956)に久留米市に寄贈された。平成23年(2011)、市民と共に歩み続けて開園55周年を迎える。

## 千栄禅寺

石橋家の菩提寺。昭和34年(1959)に寄贈。ステンドグラス窓を使った本堂庫裡は正二郎の合理性と独創性が感じられる。

## 榊原記念館

昭和32年(1957)開館。現在は石橋財団教育会館として使用されているが、かつては久留米教育クラブに提供されていた。

## 石橋迎賓館

昭和8年(1933)、石橋家の私邸として建設された。和洋一体となった庭園には、創業者石橋正二郎の庭園哲学を垣間見ることができる。

## 久留米大学医学部

昭和3年(1928)正二郎は39歳にして兄徳次郎と共に土地・建物を提供、設計にも参画した。また理事長として18年間(1951～1969)経営にあたり、文化・教育・福祉のために積極的な支援活動を行って、熱心な教育者としての面も見せている。正面玄関に同氏の全身の銅像がある。

## 有馬記念館

昭和35年(1960)久留米市制70周年を機に、表参道の自動車道路をはじめとして、朽ち果て荒廃していた城跡を整備し、有馬記念館、東郷記念館、茶室千松庵などがここに建設されている。

## ブリヂストン久留米工場

昭和5年(1930)、純国産技術による第1号タイヤの誕生に続いて、自動車タイヤの国産化を使命に操業を開始したブリヂストン発祥の地。



## 坂本繁二郎生家

市内に唯一現存する武家屋敷として貴重な歴史遺産で、久留米市指定有形文化財に指定されている。また、繁二郎の親友の青木繁が居候した茶室も復元し、彼らが描いたといわれる襦絵(複製)も展示。

## 青木繁旧居

青木繁が芸術の道を志して上京する17歳まで過ごし、類稀な芸術の才能をはぐくんだふるさとの家を青木繁旧居として復元整備した場所。正二郎は郷土の天才画家、青木繁の絵を多数収集している。

## おこながわ生家

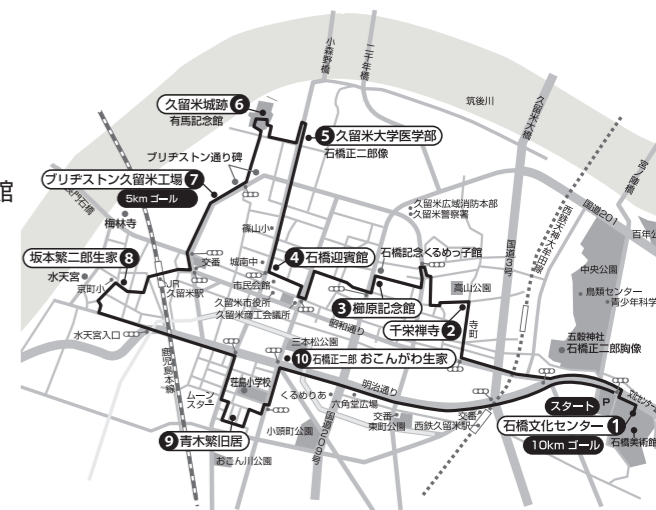
正二郎は明治22年(1889)2月1日、久留米市苧抜川367番地(本町1丁目)区域内で一番大きな家で生まれた。祖父の緒方安平はここに相場会所(米穀取引所)などを開業したりしている。18歳の正二郎は熟慮の結果、足袋専業をこの場所でスタートさせる。



# ふるさとを楽しい文化都市にしたい 石橋正二郎の郷土愛を感じる

石橋正二郎名誉市民の足跡を振り返る記念ウォーキング  
10キロコースと5キロのコース

- スタート ①石橋文化センター→②千栄禅寺→③榊原記念館
- ④石橋迎賓館→⑤久留米大学医学部→⑥久留米城跡・有馬記念館
- ブリヂストン通り→⑦ブリヂストン久留米工場 5kmゴール
- ⑧坂本繁二郎生家→⑨青木繁旧居→⑩おこながわ生家跡
- 石橋文化センター 10kmゴール





## 原点の地 事業をしながら社会に 貢献しなければならない

### ブリヂストン久留米 工場見学

平成23年1月26日

平成23年1月26日、ブリヂストン久留米工場エントランス（旧社長室）を見学しました。

久留米での工場設立当時の社長室を復元した部屋を含むエントランスは、現在建て替えが進むブリヂストン久留米工場の一部。工場全体が完成時には、このエントランスから工場の中を見ることができる見学用の施設になる予定。当日の参加者は午前、午後の部あわせて約90名となり、正二郎が当時使っていた机やテーブルなどを見学したほか、3Dビデオを鑑賞しました。



## 語り継ぐ 尊い理念や功績を深く心に刻む

### 入会のごあんない

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいきます。

石橋正二郎名誉市民の偉大な足跡と、尊い理念や功績を深く心に刻み、次世代に語り継いでいくため、石橋正二郎名誉市民顕彰会を平成22年8月に組織しました。

石橋正二郎名誉市民の理念を広く伝え、これからのまちづくりをすすめる事業を実施していきます。

石橋正二郎名誉市民顕彰会では、多くの方々のご入会を歓迎いたします。

石橋正二郎名誉市民顕彰会の趣旨や活動に賛同し、同会の組織や活動を支えてくださる会員を募集しています。活動報告としての会報（年1回）、行事のご案内をお届けします。

#### ■ 申込方法

申込み用紙に記入の上、事務局へお申込みください。申込み受付後、下記の銀行口座に指定の年会費をお振込みいただくか、または直接事務局まで納入してください。申込み用紙は事務局に準備しておりますので、お手数ですがお問い合わせください。

#### ■ 年会費

個人会員： 1口 年額 1,000円  
団体・法人会員 1口 年額 10,000円

#### ■ 振込先

口座名義：石橋正二郎名誉市民顕彰会  
筑邦銀行 本店営業部 普通預金 3012027  
福岡銀行 久留営業部 普通預金 2755875  
筑後信用金庫 本店営業部 普通預金 1174358  
西日本シティ銀行 東久留米支店 普通預金 1332464  
※本人以外の名義で振り込まれる場合にはその旨ご連絡ください。

#### ■ 申込み先・問合せ先

石橋正二郎名誉市民顕彰会  
〒839-0862  
福岡県久留米市野中町1015 石橋文化センター内  
TEL 0942-33-2271

●頂いた個人情報は当会からのご案内のためのみに使用され、ご本人の許可なく第三者に開示されることはありません。

### 世の人々の楽しみと幸福の為に

この言葉は、働く人たちにも、世の中の人々にも楽しみを与えたいと願った正二郎の経営理念と人生観でした。



### 石橋正二郎名誉市民顕彰会

名誉会長／榎原 利則  
顧問／栗原 伸夫・前川 博・飯笹 実  
会長／本村 康人  
副会長／橋本 政孝・神代 正道  
理事／橋本 安彦・堤 正則・龍頭 宏典  
監事／中園 雄介  
幹事／古賀 義幸・有馬 彰博・辻 文孝  
中川 雅夫・竹下 栄二・米替 誓志

事務局／〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015  
石橋文化センター内  
TEL 0942-33-2271

石橋正二郎名誉市民顕彰会会報 2010[No.1]  
平成23年3月発行

